

科目名	看護理論			担当教員：○流郷千幸・鈴木啓子・永田美和子・横川裕美子・田場真由美・玉井なおみ・阿部正子・清水かおり・比嘉憲枝	
科目名(英語)	Nursing Theory				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	6	430(流郷)	講義終了後

1. 授業の概要：
この科目では看護理論の批判的(クリティーク)分析や看護実践への有用性に焦点をあてる。看護学の知識体系の構築の知識を踏まえ、理論、実践、研究の関連について評価を行う。また看護実践のための科学的知識の開発に関する多様な方法により、より高度な看護実践に向けた知識の形成のために活用する。この内容についてはプレゼンテーションを中心に参加型の授業を展開する。

2. 到達目標：
(1) 看護理論の発展過程と歴史的背景を理解する。
(2) 専門職としての看護における理論の意義を理解する。
(3) 主な看護理論とその概念を説明し、分析し、臨床実践や教育・研究への適用について理解する。

3. 授業の計画
第1週 看護理論の概要(看護のメタパラダイム、理論とは、看護理論と実践・研究)
第2週 看護理論の種類と歴史的発展過程
第3週 オレム看護理論(セルフケア看護理論)
第4週 レイニンガー看護理論(ケアリング理論)
第5週 ロイ看護理論(適応モデル)
第6週 ベナー看護理論(現象学的看護論)
第7週 ワトソン看護理論(ケアリング理論)
第8週 M.ニューマン看護理論(拡張する意識としての健康理論)
第9週 ペンダー看護理論(ヘルスプロモーション)
第10週 危機理論/悲嘆理論
第11週 ストレスコーピング理論
第12週 社会認知理論/保健信念モデル/アンドラゴジー
第13週 トランスセオレティカルモデル/プリシード・プロシードモデル
第14週 各自の研究に関連する理論および概念等の検討結果の発表-1
第15週 各自の研究に関連する理論および概念等の検討結果の発表-2

4. テキスト：
・ロレイン・オルゼウスキ・ウォーカー他(中木高夫・川崎修一訳)：看護における理論構築の方法,医学書院,2008.
・カレン・グランツ,他(曾根智史他訳)：健康行動と健康教育 理論,研究,実践,医学書院,2006.
参考文献：
・Karen Glanz, et al: Health Behavior and Health Education Theory, Research, and Practice, Forth Edition, Jossey Bass,2008.
・筒井真由美編著：看護理論家の業績と理論評価,医学書院,2015.
・ジョン・R・カットクリフ他(山田智恵里監訳)：看護の重要コンセプト 20,看護分野における概念文責の試み,エルゼビアジャパン,2008.
・アン・マリナー・トメノ他(都留伸子監訳)：看護理論家とその業績 第3版,医学書院,2004.
・フォーセット(大田喜久子,筒井真由美監訳)：看護理論の分析と評価 新訂版,医学書院,2008.
・野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論,メヂカルフレンド社,2010.
・シャリー・M・ジグラー他(竹尾恵子監訳)：理論に基づく看護実践,医学書院,2002.
・佐藤栄子編著：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門第2版,日総研,2009.
この他各担当教員から紹介があるので参考にすること

5. 準備学習：
各自テキストを自分なりに読み込み用語の理解、理論の概要についての理解を進めること。日常の看護実践および研究に向けて理論の分析、その活用について考えて授業に臨むこと。また、プレゼンテーションはクリティカルシンキングを行い、準備をする。

6. 成績評価の方法：
・授業に対する参画(看護論をクリティークする力、プレゼンテーション、討論への積極的参加) 50点
・課題発表(看護論をとりあげ研究もしくは実践と結びつけ批判的に考察する) 50点
・合計 100点満点

7. 履修の条件：なし

8. その他：事前に提示された学習課題に取り組み授業に参加すること。事前に該当テキストおよび配布された資料を読みこみ授業に臨むこと。(教員の予定は変更になる可能性もあることをあらかじめ承知ください)

科目名	看護学研究方法論 I			担当教員：○永田美和子 鈴木 啓子 流郷千幸																																														
科目名 (英語)	Introduction to Nursing Research I																																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																													
2	1	前期	6	看研 17 (鈴木 啓子) 421 (永田美和子) 430 (流郷 千幸)	月曜日・金曜日 7限																																													
<p>1. 授業の概要： 看護における研究の意義と特徴を理解し、文献検討、研究デザイン、研究方法、倫理的配慮、研究計画書、学術論文の書き方などの一連の研究プロセスを学習する。</p> <p>2. 到達目標： 看護における研究の意義を理解し、看護実践の発展に貢献する研究方法論を学び、専門演習、特別研究を実施するための基盤を作ると共に、今後の研究活動に活用できることを目標とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr><td>第 1 週</td><td>ガイダンス 文献検索の方法と実際</td><td>(永田)</td></tr> <tr><td>第 2 週</td><td>看護研究の意義 看護研究の基本的なプロセス</td><td>(流郷)</td></tr> <tr><td>第 3 週</td><td>研究における理論と概念枠組み</td><td>(鈴木)</td></tr> <tr><td>第 4 週</td><td>研究課題と研究デザイン</td><td>(永田)</td></tr> <tr><td>第 5 週</td><td>量的研究のプロセス</td><td>(流郷)</td></tr> <tr><td>第 6 週</td><td>量的研究と統計的解析</td><td>(流郷)</td></tr> <tr><td>第 7 週</td><td>質的研究のプロセス</td><td>(鈴木)</td></tr> <tr><td>第 8 週</td><td>質的研究と分析</td><td>(鈴木)</td></tr> <tr><td>第 9 週</td><td>文献クリティーク 量的研究</td><td>(流郷)</td></tr> <tr><td>第 10 週</td><td>文献クリティーク 量的研究</td><td>(流郷)</td></tr> <tr><td>第 11 週</td><td>文献クリティーク 質的研究</td><td>(鈴木)</td></tr> <tr><td>第 12 週</td><td>文献クリティーク 質的研究</td><td>(鈴木)</td></tr> <tr><td>第 13 週</td><td>研究倫理 研究計画書の作成</td><td>(永田)</td></tr> <tr><td>第 14 週</td><td>研究計画書発表</td><td>(永田/鈴木/流郷)</td></tr> <tr><td>第 15 週</td><td>研究計画書発表</td><td>(永田/鈴木/流郷)</td></tr> </table> <p>4. テキスト： ・黒田裕子、中木高夫、逸見功監修 (2015)：「バーズ&グローブ 看護研究入門 第7班」 ・APA (2010)/江藤裕之他 訳(2011)：APA 論文作成マニュアル (第2版)，医学書院，東京。</p> <p><参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山川みやえ、牧本清子 (2014)：研究手法別チェックシートで学ぶよくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会 ・牧本清子 (2013)：エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー、日本看護協会出版会 <p>*随時、紹介する。</p> <p>5. 準備学習：毎回、課題を提供するので、次回までに準備すること。</p> <p>6. 成績評価の方法： ・活動状況 50 点 (評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ) ・レポートの内容 50 点：研究計画書提出 (評価視点：テーマと研究デザイン・研究方法の整合性，文献活用の適切さ，論理的な文章構成，言語表現の適切さ) ・合 計 100 点満点</p> <p>7. 履修の条件：特になし</p> <p>8. その他： 必修科目であり，修士論文作成のための基本になる科目のため，学生主体でプレゼンテーションを重ね，専門演習，特別研究に継続させてほしい。</p>						第 1 週	ガイダンス 文献検索の方法と実際	(永田)	第 2 週	看護研究の意義 看護研究の基本的なプロセス	(流郷)	第 3 週	研究における理論と概念枠組み	(鈴木)	第 4 週	研究課題と研究デザイン	(永田)	第 5 週	量的研究のプロセス	(流郷)	第 6 週	量的研究と統計的解析	(流郷)	第 7 週	質的研究のプロセス	(鈴木)	第 8 週	質的研究と分析	(鈴木)	第 9 週	文献クリティーク 量的研究	(流郷)	第 10 週	文献クリティーク 量的研究	(流郷)	第 11 週	文献クリティーク 質的研究	(鈴木)	第 12 週	文献クリティーク 質的研究	(鈴木)	第 13 週	研究倫理 研究計画書の作成	(永田)	第 14 週	研究計画書発表	(永田/鈴木/流郷)	第 15 週	研究計画書発表	(永田/鈴木/流郷)
第 1 週	ガイダンス 文献検索の方法と実際	(永田)																																																
第 2 週	看護研究の意義 看護研究の基本的なプロセス	(流郷)																																																
第 3 週	研究における理論と概念枠組み	(鈴木)																																																
第 4 週	研究課題と研究デザイン	(永田)																																																
第 5 週	量的研究のプロセス	(流郷)																																																
第 6 週	量的研究と統計的解析	(流郷)																																																
第 7 週	質的研究のプロセス	(鈴木)																																																
第 8 週	質的研究と分析	(鈴木)																																																
第 9 週	文献クリティーク 量的研究	(流郷)																																																
第 10 週	文献クリティーク 量的研究	(流郷)																																																
第 11 週	文献クリティーク 質的研究	(鈴木)																																																
第 12 週	文献クリティーク 質的研究	(鈴木)																																																
第 13 週	研究倫理 研究計画書の作成	(永田)																																																
第 14 週	研究計画書発表	(永田/鈴木/流郷)																																																
第 15 週	研究計画書発表	(永田/鈴木/流郷)																																																

科目名	看護学研究方法論 II			担当教員：木村安貴 阿部正子 本村純																																														
科目名 (英語)	Introduction to Nursing Research II																																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																													
2	1	後期	6	研究 426 (木村安貴) 研究 423 (阿部正子) 研究 420 (本村純)	火曜日・木曜日 7限																																													
<p>1. 授業の概要 看護研究に必要な分析方法の原理や手法を学習する。主に、質的研究と量的研究の特徴を踏まえ、質的および量的データの解析方法について学修する。</p> <p>2. 到達目標 看護実践の発展に貢献する研究方法論を学び、専門演習、特別研究を実施するための基盤を作り、今後の研究活動に活用できることを目標とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 週</td> <td>質的研究と量的研究について・コースガイダンス</td> <td>(木村安貴)</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>量的研究方法 【記述統計と推測統計】</td> <td>(木村安貴、本村純)</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>量的研究方法 【基本的な推測統計：2 群間および多群間の比較、相関分析】</td> <td>(木村安貴、本村純)</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>量的研究方法 【基本的な推測統計：多変量解析】</td> <td>(木村安貴、本村純)</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>量的研究方法 【演習：量的研究の文献クリティーク】</td> <td>(木村安貴、本村純)</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>量的研究方法 【演習：SPSS を用いたデータ解析】</td> <td>(木村安貴、本村純)</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>量的研究方法 【演習：SPSS を用いたデータ解析】</td> <td>(木村安貴、本村純)</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>量的研究方法 【演習：SPSS を用いたデータ解析】</td> <td>(木村安貴、本村純)</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>質的研究方法 【M-GTA の基本特性①】</td> <td>(阿部正子)</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>質的研究方法 【M-GTA の基本特性②】</td> <td>(阿部正子)</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>質的研究方法 【M-GTA を用いた研究例の検討】</td> <td>(阿部正子)</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>質的研究方法 【演習：分析テーマの設定】</td> <td>(阿部正子)</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>質的研究方法 【演習：分析ワークシートを使った概念生成】</td> <td>(阿部正子)</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>質的研究方法 【演習：概念間の関係性の検討】</td> <td>(阿部正子)</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>ミックス法について</td> <td>(木村安貴)</td> </tr> </table> <p>4. テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 木下康仁 (2020), 定本 M-GTA 実践の理論化をめざす質的研究方法論, 医学書院, 東京 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> Denise F. polit, Chery Tatano Berck (2004)/近藤潤子 監訳 (2010) 看護研究 原理と方法, 医学書院, 東京 Marcello Pagano, Kimberlee Gauvreau (2000) /正弘 監訳 (2003) ハーバード大学講義テキスト 生物統計学 入門, 丸善株式会社, 東京 中山和弘 (2018) 看護学のための多変量解析入門, 医学書院, 東京 石村貞夫, 石村光資郎 (2017), SPSS による統計処理の手順, 東京図書, 東京 石村貞夫, 石村光資郎 (2015), SPSS による分散分析と多重比較の手順, 東京図書, 東京 対馬栄輝 (2008) SPSS で学ぶ衣料系多変量データ解析, 東京図書, 東京 木下康仁編著 (2005), 分野別実践編 M-GTA, 弘文堂, 東京 木下康仁 (2009), 質的研究と記述の厚み M-GTA・事例・エスノグラフィー, 弘文堂, 東京 サトウタツヤ, 春日秀朗, 神崎真実編 (2019), 質的研究法マッピング, 新曜社, 東京 <p>5. 準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を提供するので、講義の日までに準備すること。 看護学研究方法論 I を振り返り、量的研究および質的研究に関する文献を読み込み、分析手法を自身の研究に活かすにはどのような学修が必要か、疑問点を整理しておくこと。 <p>6. 成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 質的研究の活動状況 50 点 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ) 量的研究の活動状況 50 点 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ) 合計 100 点満 <p>7. 履修の条件 看護学研究方法論 I の単位を修得していること</p> <p>8. その他 この科目は集中講義で実施を予定しています。詳細はあらかじめ連絡するので、日程を調整して出席すること。 ・新型コロナウイルス感染症拡大により、大学への登校ができない場合は、オンラインアプリケーション (Microsoft teams) を用いて講義を実施することがあります。あらかじめ、オンラインアプリケーションの使用方法を確認しておくこと。 ・必修科目であり、修士論文作成のための基本になる科目のため、学生主体でプレゼンテーションを重ね、専門演習、特別研究に継続させること。</p>						第 1 週	質的研究と量的研究について・コースガイダンス	(木村安貴)	第 2 週	量的研究方法 【記述統計と推測統計】	(木村安貴、本村純)	第 3 週	量的研究方法 【基本的な推測統計：2 群間および多群間の比較、相関分析】	(木村安貴、本村純)	第 4 週	量的研究方法 【基本的な推測統計：多変量解析】	(木村安貴、本村純)	第 5 週	量的研究方法 【演習：量的研究の文献クリティーク】	(木村安貴、本村純)	第 6 週	量的研究方法 【演習：SPSS を用いたデータ解析】	(木村安貴、本村純)	第 7 週	量的研究方法 【演習：SPSS を用いたデータ解析】	(木村安貴、本村純)	第 8 週	量的研究方法 【演習：SPSS を用いたデータ解析】	(木村安貴、本村純)	第 9 週	質的研究方法 【M-GTA の基本特性①】	(阿部正子)	第 10 週	質的研究方法 【M-GTA の基本特性②】	(阿部正子)	第 11 週	質的研究方法 【M-GTA を用いた研究例の検討】	(阿部正子)	第 12 週	質的研究方法 【演習：分析テーマの設定】	(阿部正子)	第 13 週	質的研究方法 【演習：分析ワークシートを使った概念生成】	(阿部正子)	第 14 週	質的研究方法 【演習：概念間の関係性の検討】	(阿部正子)	第 15 週	ミックス法について	(木村安貴)
第 1 週	質的研究と量的研究について・コースガイダンス	(木村安貴)																																																
第 2 週	量的研究方法 【記述統計と推測統計】	(木村安貴、本村純)																																																
第 3 週	量的研究方法 【基本的な推測統計：2 群間および多群間の比較、相関分析】	(木村安貴、本村純)																																																
第 4 週	量的研究方法 【基本的な推測統計：多変量解析】	(木村安貴、本村純)																																																
第 5 週	量的研究方法 【演習：量的研究の文献クリティーク】	(木村安貴、本村純)																																																
第 6 週	量的研究方法 【演習：SPSS を用いたデータ解析】	(木村安貴、本村純)																																																
第 7 週	量的研究方法 【演習：SPSS を用いたデータ解析】	(木村安貴、本村純)																																																
第 8 週	量的研究方法 【演習：SPSS を用いたデータ解析】	(木村安貴、本村純)																																																
第 9 週	質的研究方法 【M-GTA の基本特性①】	(阿部正子)																																																
第 10 週	質的研究方法 【M-GTA の基本特性②】	(阿部正子)																																																
第 11 週	質的研究方法 【M-GTA を用いた研究例の検討】	(阿部正子)																																																
第 12 週	質的研究方法 【演習：分析テーマの設定】	(阿部正子)																																																
第 13 週	質的研究方法 【演習：分析ワークシートを使った概念生成】	(阿部正子)																																																
第 14 週	質的研究方法 【演習：概念間の関係性の検討】	(阿部正子)																																																
第 15 週	ミックス法について	(木村安貴)																																																

科目名	沖縄のケアリング文化			担当教員：大城凌子・ 宇座美代子（非常勤講師）	
科目名（英語）	Nursing in Okinawan Culture				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
1	1	前期	2～3	看研 13（大城） 非常勤講師控室	金曜日 3 限 講義前後 30 分
<p>1. 授業の概要 沖縄の地理的・歴史的背景を踏まえ、沖縄の文化として脈々と受け継がれてきたケアリングの在り様を探究し、沖縄の生活や文化に根ざしたケアリングの要素を、多角的、学際的側面から捉えることを試みる。前半は、沖縄の歴史や文化を概観しながら、沖縄の人々の暮らしの中に息づく文化や共同体に支えられた他者との関係性に着目して、沖縄のケアリング文化の特質と普遍性を考察する。後半は、沖縄の文化とケアリングの現象（事例）を検討しながら、沖縄の文化に根差した看護研究の方法や展望について学修する。</p> <p>2. 到達目標 1) 沖縄の人々の生活文化に根差したケアリングの現象を多角的に考察する 2) 沖縄の文化とケアリングに関する事例を分析し、沖縄のケアリング文化の特性を考察する 3) 沖縄の文化とケアリングの現象を探索する方法論的視点を理解する 4) 沖縄のケアリング文化を活かした看護実践と今後の展望について考察し、自らの意見を論述する</p> <p>3. 授業の計画と内容 第1週(5/7) コースガイダンス 沖縄の文化とケアリングに関する研究の動向 (大城凌子) 第2週(5/14) 沖縄の年中行事（日常生活）とケアリングの現象 (大城凌子) 第3週(5/28) 誕生と見取りに関わる沖縄の習俗とケアリング (大城凌子) 第4週(6/4) 沖縄の文化と看護研究 (宇座美代子) 第5週(6/11) 沖縄の文化に根差した看護研究の展望① (宇座美代子) 第6週(6/18) 沖縄の文化に根差した看護研究の展望② (宇座美代子) 第7週(6/25) プレゼンテーション (大城凌子) 第8週(7/2) まとめ (大城凌子)</p> <p>4. テキスト・参考文献：授業ごとに、資料及び参考文献を提示するので、自己学習して臨んでください。</p> <p>5. 準備学習：授業は、講義とゼミナール方式で行う。事前学習を行い参加してください。</p> <p>6. 成績評価の方法： ・授業への参画（討議への参加，課題発見及び解決に向けた提案，プレゼンテーション内容等） 50点 ・レポート（この科目を学んで、学生自身の研究や今後の看護実践にどう生かせるかをまとめる） 50点</p> <p>7. 履修の条件：特になし</p> <p>8. その他：感染対策を講じた上で、原則として対面式（状況に応じて on-line も可）で講義を行うが、コロナウィルス感染拡大の状況に応じて、講義形態は変更の場合がある</p> <p>※シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。</p>					

科目名	看護教育学			担当教員：清水かおり、嘉納英明、松下聖子、舟島なをみ（非常勤講師）	
科目名(英語)	Nursing Education				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前学期	2～6	看研6(清水)	月曜日・金曜日 6限
1. 授業の概要： 教育学、および看護教育学の理論を学習し、看護基礎・卒後教育課程、あるいは継続教育に携わる看護職者が教育的機能を果たすために必要な基本的知識・技術を修得し、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開できる能力を養う。					
2. 到達目標： 1) わが国における看護基礎教育の歴史の変遷、教育制度、教育課程について理解する。 2) 今日の看護教育の現状を分析・考察し、問題点や課題について検討する。 3) 看護職への教育のあり方について、教育の基本的な考え方や構造について理解する。 4) 教育活動を効果的に展開するために必要な基本的な知識を、教育学の関連分野からも学ぶ。 5) 自身の教育観、指導観をふり返し、看護学生ならびに看護職に対する教育的な関わりや環境づくりを含む看護教育方法に関する知識や理論・技術を学習する。 6) 学習者の動機づけを高め、自己教育力を育成することのできる看護教育方法・評価について理解する。					
3. 授業の計画と内容					
第1回	コースガイダンス、看護教育学とは何か			清水 かおり	
第2回	専門職としての看護 専門職とは何か、実践の学問としての看護学			清水 かおり	
第3回	看護教育制度 看護教育制度の歴史の変遷			清水 かおり	
第4回	看護教育制度 看護教育制度の現状、准看護師問題			清水 かおり	
第5回	教育学① 戦後沖縄の子どもと社会			嘉納 英明	
第6回	教育学② 学校と地域での学びをふりかえり、これからを考える			嘉納 英明	
第7回	看護学教育の基盤 アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション			清水 かおり	
第8回	看護学教育の基盤 キャリアマネジメント			清水 かおり	
第9回	カリキュラム			清水 かおり	
第10回	教育評価 教育評価とは何か、教育評価の考え方、看護学教育での評価の実際			舟島 なをみ	
第11回	看護教育学研究			舟島 なをみ	
第12回	学習理論と学習方法 : 成人教育技法、シミュレーション教育			清水 かおり	
第13回	学習理論と学習方法 : アクティブラーニング 臨地実習における教育と学習			松下 聖子	
第14回	教育的ケアリングモデル・経験型実習教育、看護学生が直面しやすい問題：臨地実習を通して			清水 かおり	
第15回	外国における看護学教育 米国・英国・中国における看護学教育			清水 かおり	
4. テキスト：グレッグ美鈴、池西悦子編集（2018）「看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う」改訂第2版 南江堂。					
5. 準備学習：事前に該当テキストおよび配布された資料を読みこみ授業に臨むこと。事前に提示された学習課題に取り組み授業に参加すること。					
6. 成績評価の方法： ・活動状況 50点（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ） ・レポートの内容 50点（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ） ・合計 100点満点					
7. 履修の条件：特になし					

科目名	看護倫理学			担当教員：八代利香、小西清美	
科目名(英語)	Nursing Ethics				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
1	1	後期	2～3	看研7	
<p>1. 授業の概要： 看護における倫理的問題を解決できる能力を養うために、看護専門職に必要な看護倫理の基礎的知識と倫理的思考方法について事例を通して学ぶ。</p> <p>2. 到達目標： 1) 看護倫理に関する重要な用語や概念を理解する。 2) 倫理的意思決定のプロセスを理解する。 3) 倫理的問題に関する感受性を高め、看護専門職としての責任と役割を理解する。</p> <p>3. 授業の計画と内容 第1週 ガイダンス 第2週 看護専門職の責任と倫理 第3週 倫理的ジレンマと対処 第4週 看護倫理のアプローチ 第5週 倫理的意思決定モデル 第6週 倫理的思考方法－事例演習（1） 第7週 倫理的思考方法－事例演習（2） 第8週 まとめ</p> <p>4. テキスト： 小西恵美子編：看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂</p> <p>5. 準備学習：</p> <p>6. 成績評価の方法： 1) レポート課題：70点 2) 受講態度：30点</p> <p>7. 履修の条件： 特になし</p> <p>8. その他：</p>					

科目番号	科目名	看護管理学		担当教員：横川裕美子 他	
看 276	科目名（英語）	Nursing Administration			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	5	横川 研究棟 424 鈴木 看研 17 清水 看研 6	授業時に提示する

1. 授業の概要（通常は火曜日 6 時限目、但し非常勤講師は土曜日の可能性有り）
保健看護サービスシステムの現状および看護職が直面している課題を把握し、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。

2. 到達目標：
1) 看護管理の基本的な知識・技術を修得し、現状と課題について説明できる
2) 看護の現場の変革を推進するために、課題と解決策について意見を述べる事ができる

3. 授業の計画と内容
第 1 週（10/6）オリエンテーション、医療サービスにおける看護ケアの現状と看護管理の動向（横川）
第 2 週（10/13）医療チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップ（横川）
第 3 週（10/20）医療コミュニケーションとマネジメント（横川）
第 4 週（10/27）医療安全と看護①〈看護職の健康と医療安全の関連性〉（横川）
第 5 週（11/10）医療安全と看護②〈医療安全と暴力〉（鈴木）
第 6 週（12/15）金融機関からみた病院経営（非常勤講師）
第 7 週（12/19）新人看護師のストレスに関する研究①（荒木登茂子）
第 8 週（12/19）新人看護師のストレスに関する研究②（荒木登茂子）
第 9 週（12/19）看護師のストレスコーピング①（荒木登茂子）
第 10 週（12/19）看護師のストレスコーピング②（荒木登茂子）
第 11 週（1/12）看護管理に関する研究（清水）
第 12 週（1/19）キャリア開発と看護管理（清水）
第 13 週（1/23）病院のトップマネジメントの実際（別府千恵）
第 14 週（1/23）看護管理におけるコンピテンシーモデルの活用（別府千恵）
第 15 週 今後の課題

4. テキスト：特に指定しない 参考文献：授業の内容によって随時提示する

5. 準備学習：これまでの実習や臨床経験の中での看護マネジメントの経験を具体的に振り返っておくこと。

6. 成績評価の方法：
・活動状況 50 点（授業への参加度，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切性）
・レポートの内容（テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切性，文献活用の適切性）
・合計 100 点満点

7. 履修の条件：なし

8. その他：オムニバス方式で複数の講師が授業を担当する。また授業の状況により日程が変更になる可能性がある。非常勤講師は土曜日を開講となる場合がある。担当・日程の詳細は授業時に説明する。

科目名	コンサルテーション論			担当教員： 宇佐美 しおり・鈴木 啓子	
科目名(英語)	Consultation				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	看護学科事務室 (非常勤講師控室)	授業の前後 30 分ずつ
<p>1. 授業の概要</p> <p>保健医療チームの中でのコンサルテーションについて、する側と受ける側から理解できるように、理論と具体的な事例を通して方法論を学ぶ。また、コンサルテーションを受ける看護師としての自己研鑽のあり方を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサルテーションの方法について理解できる。 ・看護実践にとってのコンサルテーションの意義について理解することができる。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 コンサルテーションの定義およびその歴史 (鈴木)</p> <p>第2週 コンサルテーションのタイプ (鈴木)</p> <p>第3週 コンサルテーションのモデル (宇佐美)</p> <p>第4週 コンサルテーションのプロセス (宇佐美)</p> <p>第5週 コンサルタントの関係 (宇佐美)</p> <p>第6週 ケース・コンサルテーションとコンサルティ中心のケース・コンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第7週 管理に関するコンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第8週 組織へのコンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第9週 グループ・コンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第10週 倫理的問題に対するコンサルテーション (宇佐美)</p> <p>第11週 コンサルテーションの評価 (宇佐美)</p> <p>第12週 コンサルテーションと他の治療との違い (宇佐美)</p> <p>第13週 演習 (1) (宇佐美)</p> <p>第14週 演習 (2) (宇佐美)</p> <p>第15週 まとめ (鈴木)</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>①テキスト： 小谷英文編著,宇佐美しおり著(2018)：PASセルフケアセラピィ, PAS 心理教育研究所出版部</p> <p>②参考文献： G.Lippitt & R.Lippitt:The Consulting Process in Action,Second Edition,Pheiffer,1986 宇佐美しおり・野末聖香(2009)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法,(社)日本看護協会出版会</p> <p>5. 準備学習 レポート課題の提出</p> <p>6. 成績評価の方法 レポート (状況の正確な記述と分析力, 課題設定・アセスメントの適切さと介入方法の適切さ) 20 点 講義・演習への参画度 (ロールプレイなどでのコミットメント, プレゼンテーションの適切さ) 80 点 合計 100 点で評価する</p> <p>7. 履修の条件 ディスカッション形式の授業を展開するため, 各自で問題事例をまとめ, レポートしておくこと。</p> <p>8. その他 テキスト「PASセルフケアセラピィ」は書店での取り扱いがないため, PAS 心理教育研究所出版部に注文し, 事前に購入をしておくこと</p>					

科目名	ヘルスプロモーション論			担当教員：高瀬 幸一	
科目名(英語)	Health Promotion				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	図書館 524	月2、木4

1. 授業の概要：ヘルスプロモーションの起こりと歴史的背景、健康観についての歴史的変遷、健康政策の現状を講じ、ヘルスプロモーションについて理解した健康政策立案への基本的能力を習得する。また、健康づくりに関する様々な理論からの観点から生活習慣病予防の具体的な知見や方法についても探究するとともに実際の現場におけるヘルスプロモーションについて学習していく。さらに、100歳高齢社会を目指す上においてサクセスフルエイジングを達成することが大切になってくる。本講義では、ヘルスプロモーションとサクセスフルエイジングの二つの考え方から、理論と実践について学ぶとともに、百寿社会の展望について考えていく。

2. 到達目標：

- (1) ヘルスプロモーション・ウェルネス理念について理解することができる。
- (2) 諸外国の健康政策の理解と健康政策立案の基本的能力を習得する。
- (3) 世界と日本の健康に関する現状を理解することができる。
- (4) 健康増進に効果的な運動の実施法について理解することができる。
- (5) サクセスフルエイジングについて理解することができる。

3. 授業の計画と内容
授業は全てAL形式にて実施する。また ITC を活用して行う。

第 1 週 オリエンテーション
講義の概要についての説明

第 2 週 ヘルスプロモーションとは、世界と日本の健康の現状
ヘルスプロモーションについて理解をするとともに、様々な健康観について考えて行く。また、今日の健康に関する世界と日本の現状について学ぶとともに、その現状をもとに健康についてディスカッションを行う

第 3 週 沖縄の長寿と健康問題
かつて世界的長寿地域とされていた沖縄県であるが、現在は危機的な健康の状況になっている。その原因について考えるとともに、これからの沖縄の健康についてディスカッションを交えて展開していく

第 4 週 平均寿命 1 位の長野県の健康増進についての取り組み ICT を活用。
1960 年代まではの脳卒中による死亡率が全国でもワーストであった長野県であるが、現在では我が国を代表する長寿県へと躍進した。その躍進の秘密は何にあるのか、例を取り上げ考えていく

第 5 週 ファストフードと健康問題 ICT を活用。
2006 年に食育基本法が制定され、食と健康の関係について学習して行くことが求められる今日となっている。ここでは、ファストフードと健康についてを中心的に取り上げ、現代における食と健康について考えて行く。

第 6 週 健康教育とポピュレーションアプローチ
健康増進のための施策を考えるにあたり、どのような層にターゲットを置くかで効果が異なってくる。ここでは、健康増進の施策の効果的な手法について説明を行う

第 7 週 ソーシャルキャピタル、ロール、ツール、ルールの相互関係、コミュニケーションオーガニゼーション
地域の健康を高めるために重要な指標にソーシャルキャピタルという概念がある。このソーシャルキャピタルと言うのは、社会的規範と捉えられているが、地域社会の健全化を図る上においては極めて大切な指標になってくる。ここではソーシャルキャピタルの概念について説明するとともに、その現状についても考えていくこととする。また、ロール、ツール、ルールの相互関係、コミュニケーションオーガニゼーションについて学ぶとともに、それらを活用したコミュニティにおける健康増進の効果的な方法について考えていく

第 8 週 我が国における優れた健康増進の施策・取り組みについて ICT 活用
我が国では、様々な自治体、団体等が健康増進活動を実施している。ここでは国単位で特に優れた取り組みと認められた活動についていくつか紹介を行い、効果的な健康増進の取り組みの実践について考えていく

第9週 我が国における優れた健康増進の施策・取り組みについて その2 ICT活用
我が国では、様々な自治体、団体等が健康増進活動を実施している。ここでは国単位で特に優れた取り組みと認められた活動についていくつか紹介を行い、効果的な健康増進の取り組みの実戦について考えていく

第10週 我が国における優れた健康増進の施策・取り組みについて その3 ICT活用
我が国では、様々な自治体、団体等が健康増進活動を実施している。ここでは国単位で特に優れた取り組みと認められた活動についていくつか紹介を行い、効果的な健康増進の取り組みの実戦について考えていく

第11週 名桜大学の健康支援
本学には全国的に見ても非常にユニークな健康増進活動を展開している。本講義では、その例を取り上げ、効果的なヘルスプロモーションについて考えていく

第12週 サクセスフルエイジング：生理的側面から探求する健康長寿について ICTを活用。
免疫と腸内細菌との関係について、医学的・生理学的側面から長寿について考えていく。動画を用いる

第13週 サクセスフルエイジング：行動心理学的側面から探求する健康長寿について その2 ICTを活用。
行動様式と健康、行動様式とストレスなど、近年の研究によってそれらの関係が明らかになってきている。ここでは動画をいながら行動心理学的側面から探求する健康長寿について考えていく

第14週 サクセスフルエイジング：健康的な100歳高齢者の秘密
人生100歳社会に突入しようとしている。社会的な背景からも健康で長生きすることが求められている。健康で100歳生きるためには、どのような生活習慣が必要なのか？実際の例を取り上げながら、健康長寿について考えていく

第15週 サクセスフルエイジング：健康的な100歳高齢者の秘密 その2 ICTを活用。
世界には健康でパワフルな100歳高齢者が多くいる。その高齢者の秘密について紐解くとともに、これからの100歳長寿社会について考えていく

第16週 まとめ

4. テキスト、参考文献

参考テキスト：小熊 祐子 富田 眞紀子 今村 晴彦（著）、サクセスフル・エイジング：予防医学・健康科学・コミュニティから考えるQOLの向上
デイビッド・シンクレア（著）LIFE SPAN 老なき世界 東洋経済

毎回、資料・文献を配布する。

5. 準備学習：講義内容について事前に調べ学習を行うことと復習を必ず行う必要がある。

6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と授業への参画度 50点
(評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ)
- ・終了レポートの内容 50点
(評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ)

7. 履修の条件：特になし

8. その他：授業日は、受講生と相談の上決定する。

授業計画は、理解度を改善するために、学生から合意が得たうえで変更することがある。

部分的にICT活用（ネット接続による）による内容を用いて授業を展開する。

コロナ禍における講義の対応としては、大学のガイドラインを遵守し、万全の体制において実施するものとする。

コロナ禍における緊急事態宣言により対面での授業が不可能な場合は、すべてリモートによるオンラインでの対応とする。

リモート授業はMS Teamsを用いて実施する。

科目名	包括的健康アセスメント			担当教員：藤内美保 永田美和子 大城凌子 鬼頭和子																																																													
科目名(英語)	Comprehensive Health Assessment																																																																
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																												
2	2	前期	2~3	研 421 (永田) 看研 13 (大城) 看研 10 (鬼頭)	授業の前後 30 分																																																												
<p>1. 授業の概要： 看護モデルを基盤として身体・心理・社会的側面を包括的にとらえる高度なアセスメント能力を養う。身体面としてのフィジカル・アセスメント(Physical Assessment)強化を中心に、心理社会面として心理社会的アセスメント(MSE: Mental Status Examination)、看護診断を統合した講義によって習得する。</p> <p>2. 到達目標： 1 身体面としてのフィジカル・アセスメントについて理解できる。 2 心理社会的アセスメントについて理解できる。 3 病態生理学と看護診断を統合した包括的健康アセスメントについて理解できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 週</td> <td>オリエンテーション</td> <td>ヘルスアセスメントの概念</td> <td>(藤内美保)</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>フィジカル・イグザミネーション</td> <td>アセスメントの基本①</td> <td>(藤内美保)</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>フィジカル・イグザミネーション</td> <td>アセスメントの基本②</td> <td>(藤内美保)</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>フィジカル・イグザミネーション</td> <td>アセスメントの基本③</td> <td>(藤内美保)</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>フィジカル・イグザミネーション</td> <td>アセスメントの基本④</td> <td>(藤内美保)</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>フィジカル・イグザミネーション</td> <td>アセスメントの基本⑤</td> <td>(藤内美保)</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>フィジカル・イグザミネーション</td> <td>アセスメントの基本⑥</td> <td>(藤内美保)</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>フィジカル・イグザミネーション</td> <td>アセスメントの基本⑦</td> <td>(藤内美保)</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td colspan="2">心理社会的アセスメントの基本①</td> <td>(鬼頭和子)</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td colspan="2">心理社会的アセスメントの基本②</td> <td>(鬼頭和子)</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td colspan="2">シュミレーターを用いた演習</td> <td>(大城、永田)</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td colspan="2">臨地における実践的ヘルスアセスメント①</td> <td>(永田、大城)</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td colspan="2">臨地における実践的ヘルスアセスメント②</td> <td>(永田、大城)</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td colspan="2">臨地における実践的ヘルスアセスメント③</td> <td>(永田、大城)</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td colspan="2">まとめ</td> <td>(永田、大城)</td> </tr> </table> <p>4. テキスト： ① 藤崎郁 フィジカルアセスメント完全ガイド 学研 ② Lynn S Bickley 著：メディカル・サイエンス・インターナショナルのベイツ診察法</p> <p>参考文献： 1. 野末聖香著「リエゾン精神看護－患者ケアとナース支援のために」医歯薬出版株式会社 2. G. W. Start et. al (2005) Principles Practice of Psychiatric Nursing 8th edition, MOSBY (安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ精神看護－原理と実践」) 3. 森山美知子編集「ファミリーナーシングプラクティス」医学書院 4. 古屋伸之 診察と手技がみえる Vol 1 Medic Media 5. 花田妙子他 ヘルス・フィジカルアセスメント 上巻 日総研 *テキストは案内します。</p> <p>5. 準備学習： 事前に掲示した資料に基づいた準備をして授業や演習に臨むこと。</p> <p>6. 成績評価の方法： ・活動状況 50 点 (授業へのコミットメント) レポートの内容 50 点 (臨地における実践的ヘルスアセスメントレポート) ・合計 100 点満点</p> <p>7. 履修の条件： 特になし</p> <p>8. その他：授業形態は講義と演習です。動きやすい服装で授業に臨むこと。 学外での臨地演習も含むため、履修可能な条件を整えること。 集中講義を予定しています。</p>						第 1 週	オリエンテーション	ヘルスアセスメントの概念	(藤内美保)	第 2 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本①	(藤内美保)	第 3 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本②	(藤内美保)	第 4 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本③	(藤内美保)	第 5 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本④	(藤内美保)	第 6 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑤	(藤内美保)	第 7 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑥	(藤内美保)	第 8 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑦	(藤内美保)	第 9 週	心理社会的アセスメントの基本①		(鬼頭和子)	第 10 週	心理社会的アセスメントの基本②		(鬼頭和子)	第 11 週	シュミレーターを用いた演習		(大城、永田)	第 12 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント①		(永田、大城)	第 13 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント②		(永田、大城)	第 14 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント③		(永田、大城)	第 15 週	まとめ		(永田、大城)
第 1 週	オリエンテーション	ヘルスアセスメントの概念	(藤内美保)																																																														
第 2 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本①	(藤内美保)																																																														
第 3 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本②	(藤内美保)																																																														
第 4 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本③	(藤内美保)																																																														
第 5 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本④	(藤内美保)																																																														
第 6 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑤	(藤内美保)																																																														
第 7 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑥	(藤内美保)																																																														
第 8 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本⑦	(藤内美保)																																																														
第 9 週	心理社会的アセスメントの基本①		(鬼頭和子)																																																														
第 10 週	心理社会的アセスメントの基本②		(鬼頭和子)																																																														
第 11 週	シュミレーターを用いた演習		(大城、永田)																																																														
第 12 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント①		(永田、大城)																																																														
第 13 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント②		(永田、大城)																																																														
第 14 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント③		(永田、大城)																																																														
第 15 週	まとめ		(永田、大城)																																																														

科目名	健康栄養学			担当教員： 奥本 正	
科目名 (英語)	Health Nutrition				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3	人 208	月 2、木 4
<p>1. 授業の概要：</p> <p>健康に生きるにはバランスの取れた食事、適切な身体活動、睡眠が必要である。この授業では、まず日本人の栄養摂取状況・食生活の現状、身体活動量等の現状と 5 大栄養素の基本的な働きを概説する。また健康に生きるために、何をどれだけ食べれば良いかだけでなく、いつ食べるのかという時間栄養学の概念を説明する。さらに、肥満や高血圧など身近なテーマを取り上げ、データの見方・考え方など根拠に基づいた栄養学の考え方を説明する。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>①日本人の栄養摂取，食生活，食習慣の問題点を指摘できる。 ②現在のわが国の健康・栄養に関連する指標を知る。 ③各栄養素の基本的な働きとそれを含む食品を知る。 ④EBN の考え方を知る。 ⑤資料を批判的に講読することができる</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週：日本人の栄養摂取量，食生活，食習慣の現状 第2週：食生活指針，食事バランスガイド，食事摂取基準，健康日本 21，身体活動の指針 2013 第3週：エネルギー消費量，身体活動量の測定 第4週：炭水化物の栄養 第5週：脂質の栄養 第6週：タンパク質の栄養 第7週：ビタミン・ミネラルの栄養 第8週：時間栄養学 第9週：サプリメント 第10週：油と脂質異常症の関係 第11週：食塩と高血圧 第12週：肥満問題 第13週：糖質制限・ダイエット 第14週：疫学・栄養疫学 第15週：健康情報リテラシー</p> <p>4. テキスト：佐々木敏の栄養データはこう読む，第2版佐々木敏，女子栄養大学出版社 参考文献： 栄養データはこう読む！，佐々木敏，女子栄養大学出版社 わかりやすいEBN と栄養疫学，佐々木敏， ここがおかしい日本人の栄養の常識，柴田博，技術評論社 栄養学雑誌，日本栄養食糧学会誌，Journal of Nutritional Science and Vitaminology AmJ Clin Nutrition, J Clin Nutrition, J Nutrition 等栄養学関連の雑誌，疫学分野の雑誌</p> <p>5. 準備学習：後半の講義は，教科書のデータ読み取り，原著論文の講読を行い，レジュメ作成を行い，授業に臨む。 そのためには原書論文の検索法と文献の準備が必要となる。 また，身体活動量の測定の課題を実施してから授業に臨む。</p> <p>6. 成績評価の方法：事前の資料準備と授業への参画度 60 点，レポート 1-2 回 (30 点)，課題 10 点</p> <p>7. 履修の条件： 特になし</p> <p>8. その他：授業内容は変更になる場合があります。</p>					

科目名	病態生理学			担当教員：花城 和彦	
科目名(英語)	Pathophysiology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	3~4	407	火・木 16:30-17:30

1. 授業の概要：
この授業では、臨床医学で頻回に遭遇する疾病を教材として、病態を生理学的アプローチから理解し、治療について学ぶ。

2. 到達目標：
臨床看護で指導的役割を担える人材を育成することを目標にする。
1)自ら論理的に病態を理解・学習できる知識基盤を構築する。
2)病態に関する正しい情報を患者やその家族に説明し、最適な判断の手助けとなる人材。
3)健康障害があっても、その影響を最小限にする際の専門的判断の知識基盤を構築する。

3. 授業の計画と内容

第1回	病態生理学の概要	花城和彦
第2回	病態生理学的研究のすすめ方	花城和彦
第3回	恒常性維持	花城和彦
第4回	体液と電解質バランスの破綻	花城和彦
第5回	循環器系の疾患	花城和彦
第6回	呼吸器系の疾患	花城和彦
第7回	内分泌系の疾患	花城和彦
第8回	免疫・アレルギー疾患	花城和彦
第9回	血液系の疾患	非常勤講師 中村真理子 (琉球大学医学研究科)
第10回	痛みのメカニズム	花城和彦
第11回	痛みの制御	木村安貴
第12回	がんの病態生理	木村安貴
第13回	がんと免疫	木村安貴
第14回	症例提示(ケースレポート)1	花城和彦
第15回	症例提示(ケースレポート)2	花城和彦

4. テキスト・参考文献

- ① 標準生理学：本郷利憲，等(監修)，医学書院（第8版），2018年
- ② カラーイラストで学ぶ集中講義 生理学，メジカルビュー社（改訂2版），2014年
- ③ Textbook of Medical Physiology, Guyton & Hall, 2016
- ④ Pathophysiology: The biologic basis for disease in adults and children. Kathryn L McCance & Sue E. Huether, Elsevier 2019
- ⑤ Pathophysiology Study Guide: The biologic basis for disease in adults and children. Kathryn L McCance & Sue E. Huether, Elsevier 2019
- ⑥ 100 case studies in Pathophysiology. Harold J. Bruyere, Jr., LWW 2009

5. 準備学習：講義タイトルに関連する論文を1編読んできてレポートすること。

6. 成績評価の方法：授業への討議の参加，レポート，試験により総合的に評価する。

- ・事前の資料準備と授業への参画度 30点
- ・ケースレポート発表 30点
- ・試験 40点
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件：3分の2以上の講義出席をもって期末試験を受験できるものとする。

8. その他

科目名(英語)	科目名：英語講読 Reading in English			担当教員：渡慶次 正則 tokeshizemi@hotmail.co.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1	後	5 1 2	月曜日 7時限
<p>1. 授業の概要</p> <p>英文で書かれた看護の専門誌・論文を購読する力を養うことを目的とする。テキストを中心に、他に一般の新聞や雑誌を読みながら、文法や語句の解説も加えて看護分野に関する基礎読解力を高め、専門誌の看護の英語論文を購読する。</p> <p>2. 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞、雑誌を辞書なしで読み、意味の概要を把握する。 ・看護の専門雑誌を辞書などを利用して読み、正確な意味を把握することができる。 <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 オリエンテーション、登録、</p> <p>第 2 週 Unit 1 Tightening Japan's Tobacco Controls</p> <p>第 3 週 Unit 2 A Dangerous Flu Season</p> <p>第 4 週 Unit 3 Coping with Anxiety</p> <p>第 5 週 Unit 4 Autism</p> <p>第 6 週 Unit 5 How to mend a broken heart</p> <p>第 7 週 Unit 6 Herbal Healing</p> <p>第 8 週 Unit 7 A lawful way to die</p> <p>第 9 週 Unit 8 Changes in sleep pattern</p> <p>第 10 週 Unit 9 Confusion</p> <p>第 11 週 Unit 10 A battered-child syndrome</p> <p>第 12 週 Unit 11 Communicating with infants</p> <p>第 13 週 Unit 12 The unique function of nursing</p> <p>第 14 週 Unit 13 How to read abstracts #1</p> <p>第 15 週 Unit 14 How to read abstracts #2</p> <p>第 16 週 Unit 15 A full research article</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>『看護英語読解 15 のポイント』 園城寺康子ほか、メディカルレビュー社(2,000 円+税)</p> <p>5. 評価</p> <p>授業への積極的参加 30点</p> <p>事前の購読 50点</p> <p>資料の購読 20点</p> <p>合計 100点</p> <p>6. 履修の条件</p> <p>教科書は英語版を用いるため、英語能力が高い学生が望ましい。</p> <p>授業も主に英語で説明する場合が多い。</p> <p>7. その他</p> <p>事前に、テキストや課題について学習をして授業に臨む。</p>				